

はくぶつかん

VOL. 1 No. 9

1977. 1. 1 平塚市博物館

新年を迎えて

館長 菅間 莊

明けましておめでとうございます。
博物館も昨年5月に開館して以来今日まで多くの方々に観覧していただき大変うれしく思っております。博物館は今後共息の長い活動を続け少しでも皆様のお役に立ちたいと考えております。

こうした考えの下にできるだけ新しい企画をもちこんで事業を展開していきたいと思っております。よろしくご協力をいただけるようお願い申し上げます。



◆ 1 月 行 事 ◆

新春特別展 6日～23日

「相模の人形芝居展」

平塚市には三人遣いと一人遣いの人形芝居があります。これらの文楽人形を全公開します。芝居場面・カシラ・カラクリ・小道具・楽屋道具等170点を展示しております。



9

新春特別講演会

テーマ 「相模人形芝居の特徴と観賞」
講師 永田衛吉先生(県文化財保護委員)
午後2時～3時 講堂 入場自由

● 2月行事予定 ●

6

連続講演会

「川の自然を考える」身近な自然である川にどんな生物がすんでいるか、将来どんな問題があるか共に考える講座です。
6日・20日・3月6日の3回連続
「淡水魚のゆくえ」 午後1時～3時
講師 中村守純先生(国立科学博物館)
申し込み 往復ハガキで1月末までに博物館へ、中学生以上で2日以上参加できる方、先着60名 テキスト代100円
体験学習シリーズ468

12

「中世陶器を作ろう」 中世陶器を自分の手で作り、古陶器の源流をさぐる。

16

自然に親しむ会

七国時代近で昆虫や地質を観察
申し込み 往復ハガキで 先着30名

21

28 体験学習シリーズNo.8

「貝カラで作ろう」
1日は鎌倉海岸で貝拾い、1日は貝で道具・おもちゃ・アクセサリーを作ります。
申し込み 1月15日までに博物館へ
多数の場合は抽選で20名

29

星を見る会「星団の観察」

申し込み 往復ハガキで1月19日までに博物館へ、多数の場合は抽選で30名、小学生以下は父兄同伴のこと。
午前10時～午後3時 科学教室
申し込み 往復ハガキで 先着20名

13

20 自然を調べる会

「関東ローム層を調べよう」
午前9時～午後4時 申し込みは往復ハガキで、中学生以上で先着20名

20

連続講演会

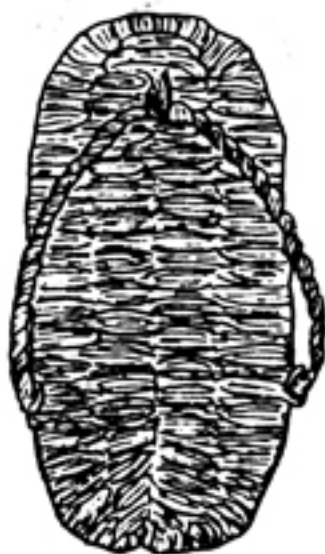
「多摩川の自然保護」 午後1時～3時
講師 寺田則孝先生(日本野鳥の会)

26

星を見る会

「月の観察と月の話」 午後5時～7時
申し込み 往復ハガキで2月15日までに多数の場合は抽選で30名 小学生以下は父兄同伴のこと。

体験学習シリーズ№7
「草履をつくろう」より



毎日1回、科学教室で行っている体験学習も今回で7回目となりました。身近にある自然のものを利用して自分達の手で、実験・製作をし、1つのものを作りあげる楽しさ、技術の体得、自然の物の利用などを目的としています。そして、自然と人間生活のかかわりを考えるきっかけをみんなです

かんでいこうと考えています。

12月19日は、稲ワラを利用してゾウリを作ってみました。今では、ほとんどゾウリははかなくなりましたが、戦後、5年ゾウリが出まわるまで、ゾウリ・ワラジなどは欠くことのできないはきものでした。冬の間の仕事として、ゾウリを作つたり、ワラジを作つたり、縄をなつたりして春

からの仕事に備えました。ゾウリ・ワラジは、自分の足の大きさにあわせてつくります。途中まで作り、足にあわせ、鼻緒の位置を決め、手で寸法をとり、自分にあつたように作りあげていきます。

ゾウリやワラジは、江戸時代やそれ以前の時代からずっと使われていました。それが戦後、急に使われなくなり、今では葬式など、古いしきたりに従っているものの中で少し使われるだけになりました。私たちの親や祖父・祖母、そして、それ以前の人たちの使つたゾウリを作り、その作り方を覚え、長い間に培われた生活の知覚に触れ、自分達のはきものと比べ、生活の移り変わり——生活の歴史の一端を考えてみましょう。

参加者は、当日の飛び入りも含めて18名。市内入野の今井四郎さん・関本市五郎さんの指導でみんな自分の足にあわせ、一足作れました。
参加者名 大津茂・大津龍一・大野とく代・岡崎廣・沖野郷子・金子哲男・亀井恵子・小池健
澤海伸治・関谷操男・角田直大・富山美津子・藤井葉子・丸山裕子・峯尾明美・山田琴子・山本ミサ子他1名(敬称略) (小川)

★「星を見る会」より★

毎月1回、月がちょうど半月のころを見はからつて「星を見る会」を計画してきました。9月までは天気に恵まれず、実際に会が行なわれたのは10月からでした。

会は予定日の10日前までに往復ハガキで申し

込んでいただき、30名以上になつた時は抽選して、来てもらつています。

会では、まずその日に見る天体の説明をリーフレットや黒板を使い、科学教室で行ないます。それから外に出て、鏡の口径が16cmの反射望



遠鏡を使つて月や惑星の表面を見たり、そのまわりで星座を探したりします。3回の「星を見る会」で見たものは、次のとおりです。

10月 月面(クレーター・海)

11月 金星・月面(神酒の海)

12月 金星・木星と4つの衛星・月面

会に来られる人たちで一番多いのは小学生とそのお父さん・お母さんです。中には夫婦でとか、4人ぐらいの中学生のグループで来られる人たちもいます。

今後もこの「星を見る会」では「本当の星」をみなさんと見続けていこうと思います。(HG)

はくぶつかん VOL1 №9

昭和52年1月1日 通巻9号

発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41

TEL 0463-33-5111

印刷 平塚市総務部行政課文書係

©1977